

# 主体的・協働的に学ぶ

**GET Part 1**

These are pictures of Ms White's classroom. The students are studying language arts. Look. This girl is reading. This boy is practicing a speech. These students are making a poster in a group.

**Words**

- study (stə'di)
- language
- read
- speech
- make
- poster
- group
- in a group

White ホワイト (名詞)  
language 言語 (名詞)  
group グループ (名詞)

What does Ms White teach?

Tan studies math every day.  
Tom is studying math now.

**Drill**

1 Listen & Choose 2 Listen / Repeat / Say 3 Write

100 one hundred

## 2. GET のパートの協働的な学びの過程 (Book1, Lesson 8 GET Part 1 を例に)

(1) 本文の場面と文法を知る

- ① 絵を見ながら、教師による本課の場面や、絵の中の人物の動きなどの説明を聞く。
- ② 本文の音声を聞き、教師からの発問に答えて、あらましを理解する。

(2) 基本本文による文法の理解と Drill による練習

- ① 文法の説明を聞き、わかったことや疑問点をペアで説明し合うなどして、理解を深める。
- ② 1 Listen & Choose, 2 Listen / Repeat / Say, 3 Write の順に練習する。

(3) Practice による練習

- ① 1 Listen では、誰のことを説明しているかを聞き取る。
- ② 2 Speak の活動のヒントと Word Bank の語句を知り、発音練習をする。
- ③ 2 Speak では、Word Bank の語句などを手がかりに、ペアで教科書の中から絵を選んで説明したり、どの絵についての説明かを当てたりして、発展的な練習を行う。
- ④ 3 Write では、発話した英文を書く。ペアで教え合ったり、確認し合ったりする。

(4) 本文の内容理解と音読練習

- ① 本文中の語彙の音声・意味・使い方を知り、発音練習をする。
- ② 本文を黙読して、発問に答えて細部を理解する。
- ③ 挿し絵を説明することを目標に、内容や表現に気をつけながらペアで音読練習をする。

(5) 本文の挿し絵の説明

本文を見ずに、挿し絵の人物の動きを説明すると、発話の内容は本文とほぼ同じになる。これは、本文の意味内容や現在進行形を理解した上で、絵の説明として行われる発表であるため、GET Part 1 での学習の成果が表わされたものとなる。

## 3. ペアやグループによるアクティブ・ラーニング

教師からの一方的な説明や、一斉指導による形式操作の練習が多くなりがちな文法学習を主体的・協働的なものにするために、ペアやグループで学習や練習をさせるようにしたものが本稿での指導例である。コミュニケーション活動をペアやグループで行わせることは一般的であるが、このような基礎的な知識や技能の習得を目標とした授業でも、学習をできるだけ生徒に委ねることで、学習は活性化し知識や技能の定着を促進することができる。

### Drill

ターゲットの文法事項を使った英文を、聞いたり、くり返し言ったり、書いたりして、徹底的に反復練習をします。

### Practice

簡単な文脈を使った 4 技能の活動を通して、文法事項や語句・表現などを定着させます。

- Listen** … メインキャラクターのサイドストーリーを聞く
- Speak** … Word Bank の語彙を活用して自分のことについて話す
- Write** … 2 Speak で話した内容をまとめて書く

## 1. 文法学習におけるアクティブ・ラーニング

1つの課が GET と USE のパートで構成され、文法を導入し練習をさせる GET から、文法を活用させる USE へと発展しているということが、NEW CROWN の大きな特長である。GET のパートでは、文法の意味と形式だけではなく、どのような場面でどういう働きのために文法を使うのかを理解でき、活用につなげられるよう、本文と言語活動の内容が工夫されている。さらに、ヒントの語彙が示されているため、文法を使う練習を生徒同士に取り組みやすい。これらの特長や工夫を生かした GET のパートのアクティブ・ラーニングの例を紹介する。



樫葉 みつ子  
(広島大学)